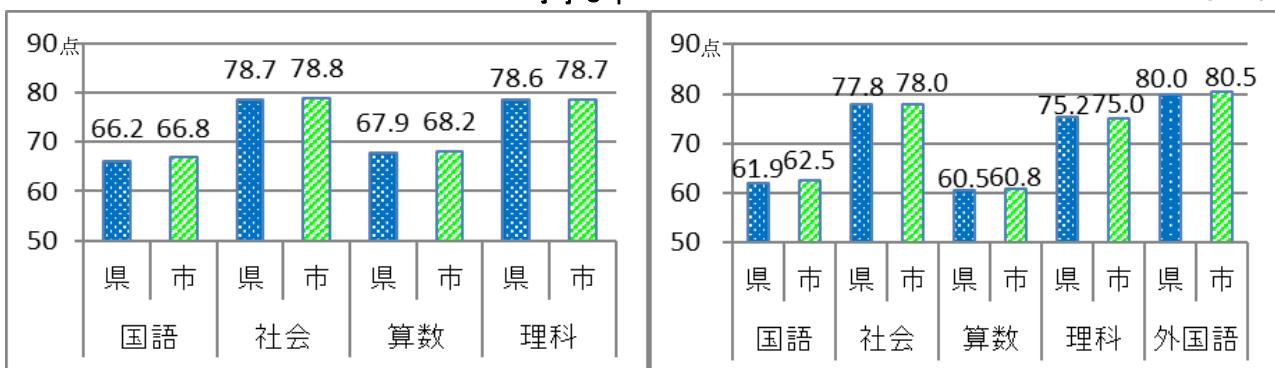


令和6年度千葉市学力状況調査結果概要（小学校版）

1 県と本市の平均得点との比較 小学3年



小学5年

2 各教科の改善策

【国語】 言語使用場面を意識した系統的な指導の工夫

小学3年

○小学校学習指導要領解説国語編における改訂の趣旨及び要点の中の「漢字学習の改善・充実」では、漢字の書きの指導は二学年間という時間をかけて確実に使えるようになることの重要性が記載されている。第3学年で学んだ新出漢字については、第4学年になっても継続的に指導することが大切であり、実生活の中で活用できるように工夫を凝らす。

小学5年

○第5、6学年の「読むこと」における精査・解釈（説明的な文章）の目標は、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」である。児童が日常生活の中で目にする文章には図表やグラフ、写真や挿絵などが含まれる。その際、書き手の意図を理解し文と資料を効果的に結び付けることで内容について理解が深まる。学習では読み手、書き手どちらの経験もしながら、論の進め方を意識して情報に向き合う機会を重視する。

【社会】 資料読み取りと体験活動を往還させる学習の工夫

小学3年

○資料から読み取った情報を文章で書き表すことに慣れていくようにする。そのために、地図からわかるなどを文章で表せるよう、単語を先に提示してその単語を使って文章を書くなど、活動を工夫する。また、書いた文章の内容を確かめるため、根拠を明確にしてわかりやすく伝え合う活動を取り入れる。

小学5年

○自然災害への取組と内容を理解することが大切である。知識を正しく身に付けるためには、知識の習得だけでなく、見学・調査活動や体験的な活動が必要となる。例えば、学区の避難所や防災訓練、地域放送などの身近な事例を取り上げたり、千葉市の取組を調べたりする活動を位置付ける。

【算数】 筋道立てて考える力を育む問題解決の充実

小学3年

○ボールなど身近にある球の測定など、体験的な活動を通して円と球の半径や直径についての理解を深めていく必要がある。また、半径を求めるまでには二段階の解決が必要となる。まず、ボール1個分の直径を求め、続いてボール1個分の半径を求める。このように、問題からわかるなどを一つ一つ整理し、図形の性質を使えそうなど解決の見通しをもてるような場面を設定していくことで、筋道を立てて解決をする経験を増やしていく。

小学5年

○各種グラフを正しく読み取り、そこからわかるなどを整理したり話し合ったりする活動を重視する。そのために、割合の数値だけに捉われず、実際の人数（もとにする量）を正しく捉えられるよう、誤った考え方と比較する場面を設定する。問題解決の過程の中で全体・部分・割合のそれぞれの関係を正しく捉え、個別の情報を関連させて、総合的に判断する必要があることに気付くことができるようとする。

【理科】 現象の観察・実験を通した科学的な見方・考え方の育成

小学3年

○鉄釘が磁石に引き付けられたり反発したりする様子を実際に観察できる活動を取り入れることで、磁化の過程を体感的に理解できるようとする。また、児童自身が予想し、確かめた後、生じた事象を図示しながら言葉で説明する活動を取り入れることで、知識の定着につながるため、児童を取り巻く学びの環境全体で支える。

小学5年

○通常のグループ実験に加え、教室の天井から大きくダイナミックなふりこを吊すといった具体的な実演活動によって、体験的・視覚的に学習内容を理解させることも重要である。このように、印象に残る具体的な活動を取り入れる。

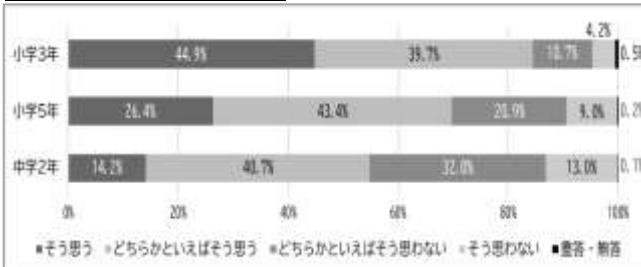
【英語】 「聞く・話す・読む・書く」を往還させる言語活動の充実

小学5年

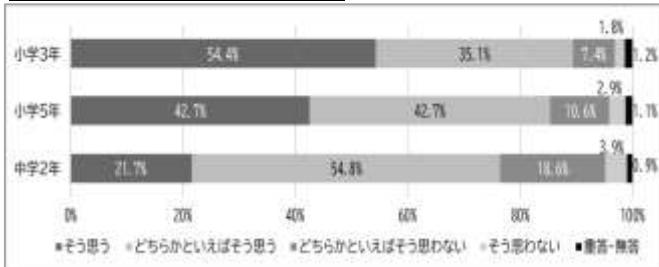
○「読むこと」においては、聞いたり話したり、書いたりする活動を通して語彙や表現に十分に慣れ親しむことが大切である。書かれている表現を、音声を聞きながら確認していく学習活動や、やり取り等を通して表現に慣れ親しむ活動を繰り返し行っていく。

3 学習に関する意識

○学校の勉強が好きだ



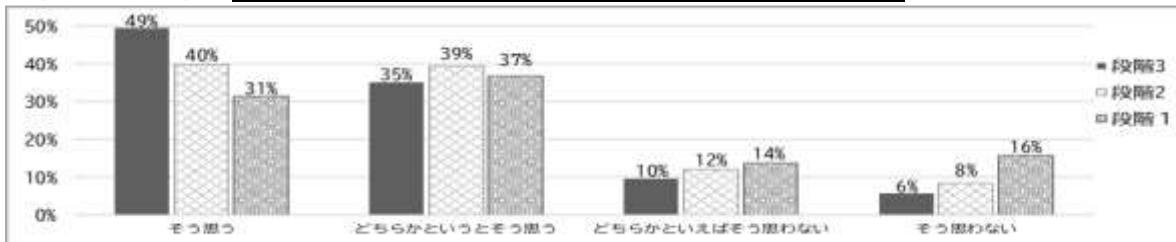
○学校の勉強がよくわかる



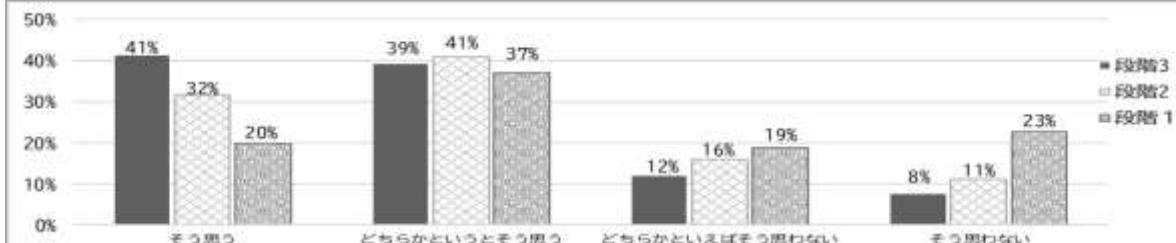
いずれの学年も学校の勉強に対して「好きだ」は「わかる」より低く、3年から5年にかけて、「好きだ」の肯定的割合が低下している。千葉市では「わかる授業」の推進に向けた課題を設定し、「児童生徒が伝え合い、学び合い、わかり合う授業を創造することを目指している。一人一人のよい点や可能性、できるようになったこと等の積極的な評価をすることで、「勉強が好きで、わかる」姿を目指す。

4 自己に関する意識 ○あなたは、自分によいところがあると思いますか。

小学3年



小学5年



成績上位群を段階3とし、段階3より段階2、段階1と示している。

自己肯定感と学力検査の得点との関連

「自分によいところがある」という意識は、学習状況との関連が見られる。本市では、学習内容を習得することだけでなく、他者に貢献する経験を大切にすることを目標に掲げている。学習活動においても、様々な人と関わり、自己の思いを実現することを通して、自分ができることに気付いたり、他者から認められたりするなど、自分自身を肯定的に理解できる経験を積み重ねていくことができるようにする。